

ひゃっけん がわ いち あら て  
百間川一の荒手 現地公開資料



日時：平成28年12月6日（火）午後2時～3時  
場所：岡山市中区中島地先 百間川一の荒手発掘現場  
主催：岡山県古代吉備文化財センター  
国土交通省中国地方整備局岡山河川事務所

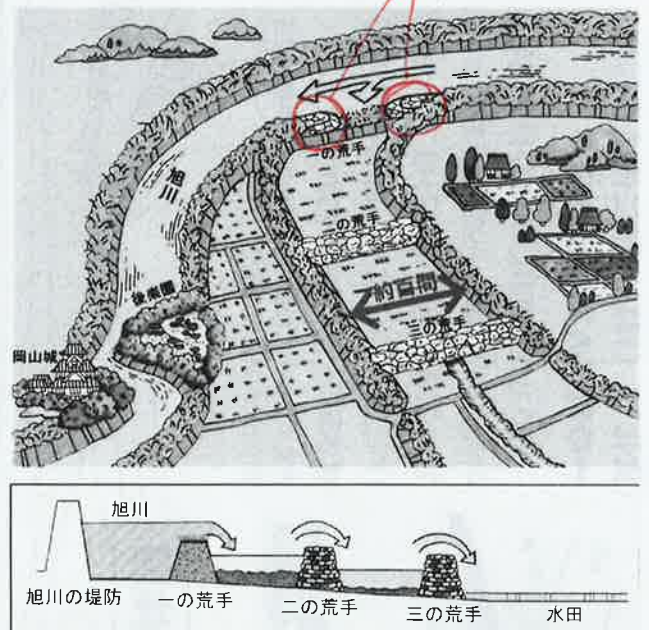
百間川は、岡山城下を洪水から守るため、旭川の放水路として江戸時代に造られた人工の河川です。岡山県古代吉備文化財センターでは、百間川分流部の改修工事に伴って、「一の荒手」と呼ばれる治水遺構の発掘調査を行っています。

「荒手」とは、百間川に設置された3か所の越流堤（洪水を調整するために一部分を低くした堤）のことを指し、貞享3（1686）年から翌年にかけて整備されたと考えられています。このうち最も下流にあった「三の荒手」は明治25（1892）年の洪水で流失し、現在は「一の荒手」と「二の荒手」が残っています。

一の荒手は、百間川と旭川本流とを隔てる「背割堤」の北端近くにあり、百間川が旭川から分岐する位置に築かれています。洪水を百間川に流すための越流部と、背割堤の端部を保護するための巻石部からなり、全長は約180mです。今回の調査では、南北の巻石部の全容が明らかになりました。



遺跡の位置 (1/25,000)



### 荒手の模式図

旭川の水位が上昇し、一定の高さに達すると、あふれた水が一の荒手を乗り越えて、普段は水流のない百間川に流入します。流入した水は二の荒手と三の荒手でせき止められ、勢いが弱まるとともに土砂が沈殿し、きれいな状態になって下流へ排出されます。これによって、洪水による下流域への悪影響を抑えることができました。

※国土交通省中国地方整備局岡山河川事務所『百間川小史』2015から